

【柔軟仕上剤の輸入量】

(2003~2009年)

年	輸入数量 (t)		沖縄の 前年比
	全国	沖縄	
2003	9,276	1,318	102.9%
2004	11,668	1,631	123.8%
2005	11,548	1,548	94.9%
2006	13,864	1,865	120.5%
2007	15,601	2,707	145.1%
2008	25,803	3,850	142.2%
2009	44,502	6,001	155.9%

6001トン

もともと洗った衣類をやわらかく仕上げるための柔軟仕上剤。最近では、清潔なイメージの“香り”を目的に利用する人も増えているようだ。

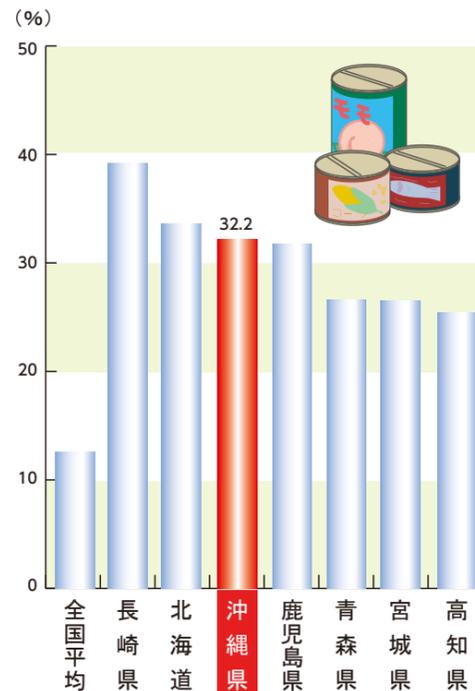
沖縄地区税関の「柔軟仕上剤等の輸入」によると2009年の沖縄県内での輸入数量は、約6千トン。輸入金額も8億2100万円となり、2005年の約4倍も増加している。2003年以降、全国の輸入量の13~17%を占め、2009年の人口一人あたり、県内の輸入量は、4.3kgと全国平均の約12倍である。防臭効果や香りの持続効果の高い輸入品が県民に人気を得ているのではないかな。

「匂いによって記憶や感情が呼び覚まされる」と言われるように、“香り”は、人の情動や記憶をつかさどる脳の脳辺縁系に直接作用しているようだ。さて、洗濯物をたたみながら、“ほんのり良い香り”で、あなたは何を思い出すのだろうか？

(海邦総研人材開発部/安田ひろみ)

【食料品製造事業所の割合】

(2006年)



32.2%

亜熱帯特有の農水産物や、独特の気候・風土に育まれた食文化は観光客にも高い人気がある。その影響もあってか、県内の食料品製造事業所数も多いようだ。

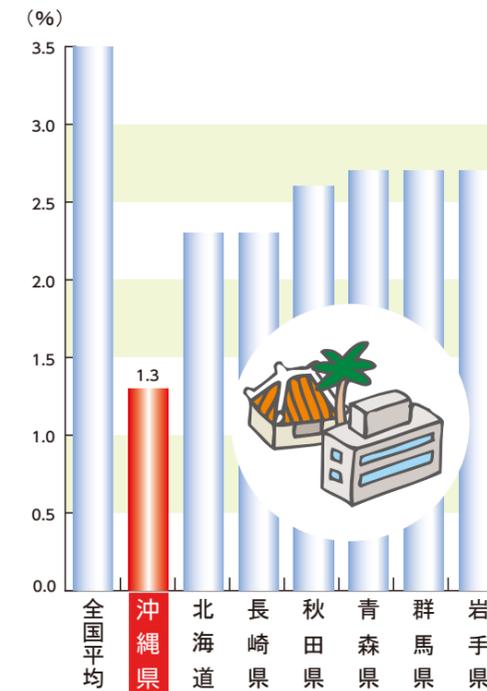
経済産業省「2008年工業統計調査」によると、沖縄県の全製造業のうち、食料品製造事業所の割合は32.2%で3番目に高く、その割合は全国平均と比べ約3倍にもなる。出荷額ベースでも、全製造業に占める割合は22.4%と高く、全国3番目の水準だ。

最近では、地域の特産物を活用した、農家と食料品製造業者の連携による取組みも多く、様々な商品が開発されている。県産の珍しい素材だけに頼ることなく、高い技術力や新しいアイデアによる高付加価値の商品で、県外市場に挑戦する事業者が増え、ますます発展していくことを期待したい。

(海邦総研経営企画部/国吉真吾)

【耐震改修工事の実施割合】

(2008年)



1.3%

県内では、敷地の有効利用の観点から1階部分を柱だけで支えるピロティ形式の家屋をよくみかける。ピロティとは家屋1階部分の柱だけで構成された空間のこと。

しかし構造上のバランスが悪いため、耐震性に問題があるらしい。そのため、改修工事の必要性を指摘されているが実績はまだ少ない。

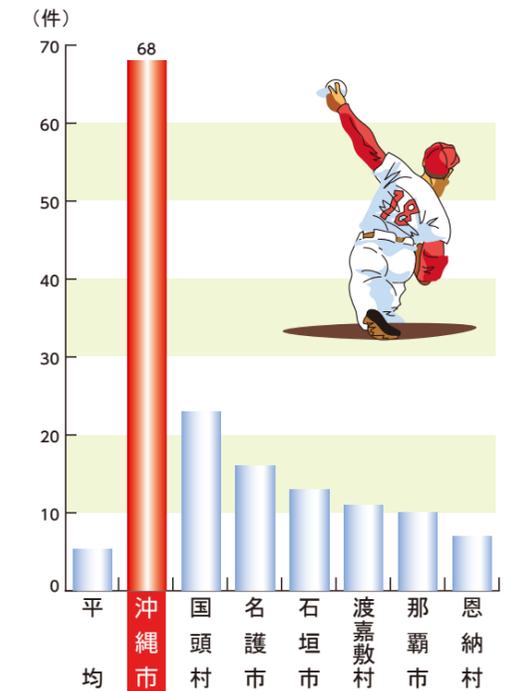
総務省「2008年住宅・土地統計調査」によれば、沖縄県の耐震改修工事が行われた持ち家の割合は1.3%と全国で最も低い。家屋の強度を調べるには耐震診断を受ける必要がある。耐震診断、工事費用となると安くはないため、躊躇している方もいるだろう。去年99年ぶりに沖縄でも震度5弱の地震が発生した。沖縄にも地震が起こることを再認識したところだ。

地震対策のひとつに自宅の改修は入っているだろうか。

(海邦総研事業支援部/比嘉明彦)

【市町村別キャンプ合宿開催件数】

(2009年度・沖縄市)



68件

国内唯一の亜熱帯地域であり、年間を通して温暖な気候に恵まれている沖縄県。プロ野球キャンプに代表されるように、毎年、様々なスポーツのキャンプ合宿が開催されている。

2009年度の沖縄県スポーツコンベンション振興協議会「スポーツコンベンション開催実績一覧」によると、県内のキャンプ合宿開催件数は、216件。その中でも沖縄市は68件とダントツの1位だ。

ちなみに種目別では、陸上競技と野球が中心となっている。特に野球は1件あたりの参加人数が多く(約48人/件)、平均滞在日数も長い(14.1日/件)のが特徴だ。

観光振興の面でも大きな経済効果が期待されているが、スポーツ活動を通じた交流は、教育の面でも効果が大きい。今後もさらなる振興が期待される所だ。

(海邦総研経営企画部/新里治史)